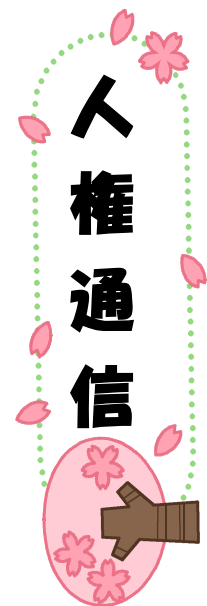


人権通信



令和四年三月二十四日発行 第四号

発行 城ノ内中等教育学校・高等

学校人権委員会、レベラーズ

こんにちは、人権委員会です。三月に入って暖かい日が増え、めっきり春めいてきました。ちなみに徳島の桜の開花予想は三月二十五日ということで、平年よりも一日早いようです。

さて、今回は四年生の人権委員の皆さんが担当です。

避難所における問題点の一つにプライバシーの保護がある。その困難の質や度合いについては男女間で大きな差があり、男性に比べて女性の方が負荷がかなり大きい。

その負荷を軽減するために、札幌市では、女性視点の避難所運営に取り組んでいる。異性の目線が気にならない更衣室や授乳スペースの設置、被害を防ぐための女性専用避難スペースの設置などが計画されている。

女性の負荷を軽減するという点で、このような運営側の配慮は大切である。それと同様に、各個人がおのこのプライバシーを自ら守るための環境づくり、また、他人のプライバシーを尊重する気持ちも大切である。

女性だけでなく、子どもや高齢者、さらには男性のプライバシー保護についても考えていくことで、みんなが安心して過ごせる避難所をつくってきたい。

私の家の裏には一軒の社宅がある。そこにはアジア系の外国人労働者が住んでおり、すぐ隣の会社で働いている。以前付近を通りかかったとき、線路沿いに咲いている花を見て、うれしそうな笑い声をあげていた。世界中で新型コロナウイルス感染症が拡大する前の話である。しかし一年後、あの楽しそうな笑い声を聞くことはめっきり減ってしまった。

新型コロナウイルス感染症の流行などにより、経済が不況に陥ったときに、解雇などで一番最初に被害をこうむるのは外国人労働者であることが多い。なぜなら、技能実習生制度など、日本では外国人労働者が不十分な労働環境で働かされているからである。

外国人労働者の労働環境を整え、日本人労働者と同等の権利を得られるようにすることが、今後の日本の発展につながるのではないかと思う。

異文化交流。それは、グローバルな社会を生きるために重要な、多面的なものを見方を身につけるために必要な手段のひとつである。私は、単に外国人とだけではなく、高齢者とのふれあいも、私たち高校生にとってはひとつの異文化交流といえるのではないかと思う。なぜなら、同じ日本でも時代が違えば、もの見方や考え方、文化などが異なるからだ。

異文化交流は私たちを成長させてくれる。にもかかわらず、高齢者に対する差別は依然として根強く残っているように感じる。確かに私も、高齢者の方と話している時に、昔の話ばかりされるとイライラすることもある。しかし、それは自分の中にいつしか自己中心的な考え方が生まれてきているからだ、ということに気づいた。イライラするのは自分とは違う文化を受け入れられないからではないかと。

コロナにより海外との交流が自粛中の今、自分自身の成長のためにも、まずは身近なところで異文化と触れてみるべきではないだろうか。

四年生の人権委員の皆さんの意見はどうでしたか？

生徒の皆さんも、この機会に人権問題について考えたり、家族と話してみたりしてください。この人権通信を、人権について考えるきっかけにしてみてください。

